

第2回 性教育は平等な関係性を基盤に行われる

今日の子どもたちは、インターネットの急速な普及によって、日々、さまざまな性情報に曝されています。その情報は不正確だったり、暴力的だったりするほか、性感染症や予期せぬ妊娠に対する無防備な性行動を促すものであったりします。そのため、学校における性教育の主な目的を性感染症や予期せぬ妊娠を防ぐための予防教育と位置づける人もいます。

しかし、性行為は人間同士の関係性の一つの現われですから、その両者の関係性が支配・被支配関係にあるとか、不平等な暴力的な関係性とかであれば、弱者の方が予防の知識を持ち実行したいと思っても、相手が嫌だといえ、実行できないということになります。言い換えれば、性教育は平等な関係性を基盤に行われなければ、教育効果があがらないということです。ですから、**性教育は科学的な知識と人権を尊重し、平等な関係性**の下で行われる必要があります、一人一人の性的健康を守り、**良好な人間関係を保つための教育**だと言えます。

*性的健康と良好な人間関係を保つためには、どのような知識が必要だと思いますか。

・人間の性と生殖に関する

生理学的側面の知識・・・思春期のからだの発達と二次性徴について
性器生殖器官の名称や機能について
妊娠と出産、避妊、中絶の仕組みと方法
更年期障害の症状と対処の仕方
高齢期の問題など。

社会的側面・・・・・・・・法や制度に係る問題

- ・選択的夫婦別姓や同性婚問題に関する国内外の動向と課題
- ・ピルの認可や生殖補助医療に関する制度と生命倫理に関する論争、健康保険のカバーする範囲をめぐる問題など

心理的側面・・・・・・・・関係性に関する問題

- ・親密な関係のパートナーを得るには、出会いがあり、時には別れもあるということの理解
- ・性行為には「同意が必要」や「責任が伴う」ことの理解など

*性的健康を保つためには、どのようなスキルと行動が必要だと思いますか。

たとえば、避妊方法を実際に行えるとか、性的同意を前提にした行動がとれる（いやなら、NOと言える関係を作れる）とか、性感染症や妊娠を疑うとき、相談できる機関や場所を知っている、相談に行けるなど・・・・。

→ 他に、どんなことがあるか考えて見ましょう。

*ジェンダー平等と性の多様性を尊重し、暴力のない関係性の学習

とりわけ、すべての人間の尊厳が尊重され、対等平等性が保障されるための人権教育の充

実が求められます。そういう意味では、性教育は人権教育の重要な構成部分だといえます。

性教育は科学的な知識と人権を尊重し、平等な関係性の下で、行われる必要があると先に、述べましたが、西欧諸国では性教育関連事項が「生物」や「人間生物学」「科学」の教科書で教えられています。これらの教科書では、科学的、生理学的な事実だけでなく、社会的な側面や心理的な側面、性行動における個人の責任などについても、述べています。その中で、印象に残ったフィンランドの中学校『人間生物学』の日本語訳版の一部を最後に紹介します。監訳者まえがきによれば、この本は、フィンランドの Sanoma Pro 社（旧 WSOY Pro 社）出版の中学校教科書「進化」および「人体」の 2 冊から、主な章を選び、日本語に翻訳して 1 冊にまとめたものということです。

1 章生命の特徴に始まり、9 章生殖、10 章遺伝、11 章ヒトの一生で終わりですが、11 章の本文の最後のページに、次の一文が載っています。

幸福な人生とは

幸福な人生とは何か。その答えは、人それぞれだろう。人生に起伏を求める人もいれば、穏やかな人生を望む人もいる。完ぺきな人生というのはほとんどありえないが、困難や危機は、私たちが精神的に成長できる機会でもある。

どの人の一生も、その人自身のものである。私たちは生きているあいだに、自分ではどうしようもないことがらにたくさん出会う。人生は選択に満ちている。ときに、とても難しい選択もある。より正しい解決方法を見つけるには、選択の助けになるような多くの知識と、己の選択の影響を見通す力、想像力をもちあわせている必要がある。

健康的な生活習慣、何ごとにも積極的な姿勢、親密な人間関係、そして良い友人たちが、人生の苦痛に耐え、人生を意味のあるものにする最良の助けとなる。

自分を大事にしなさい。なぜなら、あなたは、あなた自身の人生にとって、かけがえのない主役なのだから！

（Mervi Holopainen ほか著、鈴木誠監訳、山川亜子訳『フィンランド理科教科書』生物編化学同人、2014 年 2 月、 P230 より）

